

## 課題対応取組み報告書

【共通】

名称	北区地域包括支援センター					
提出日	R7	年	6	月	12	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設（居場所づくり等）
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
	<input type="checkbox"/> その他（ ）	
活動テーマ	我がごと・丸ごとの地域とのつながりづくり ～終活セミナーを活用した包括周知活動と地域とつなぐマンションアプローチ～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域とのつながりが希薄な要介護高齢者では自ら支援を求めることができず、不衛生な環境や家賃・管理費の滞納、被害妄想等が原因の近隣トラブルなど深刻な状態でケース発見に至ることが多い。 高層マンションをはじめとする集合住宅ではオートロック等のセキュリティが高く、プライバシーや個人情報のへの配慮により管理人や居住者が情報発信をためらう傾向にある。 比較的資産の多い独居高齢者で認知機能の低下により、金銭管理ができなくなると、資産があるにも関わらず支払いができずライフラインが止まるなど生活に支障をきたすが、他者に金銭管理を委ねることは拒否し、生活困窮に陥るケースが多くみられる。	
対象	介護等を必要としない高齢者やその家族。マンション管理人や住民。	
地域特性	高層マンションをはじめとする集合住宅が多く、オートロック等のセキュリティが高い。また、町会加入率も低く、交通や医療の利便性から高齢になって転居してくる高齢者も多い。そのため地域との関係性が希薄になりやすく、支援を求めることが難しい。古くから住まれている方が多い地域は地域の見守りもあり、相談なども上がってきやすい。	
活動目標	マンションへの個別アプローチを継続して積み重ね、関係性ができているマンションには終活セミナー等を開催し、地域包括支援センター（以下「包括」という）の活動等の周知啓発を図る。また、マンションの関係者と連携の強化を行い、潜在化した高齢者の早期発見、早期介入の地域ネットワークの構築を目指す。 高齢者やその家族が元気なうちから認知症や介護が必要になることを自身の問題として考える機会を持ち、将来に備え介護予防や権利擁護の意識を高める。	
活動内容 (具体的取組み)	①様々な情報発信ツールを活用した包括周知活動 ・公式YouTubeチャンネルの活用（毎月更新） 社会資源や介護知識の紹介、自身で取組む介護予防や脳活など様々なジャンルの情報を、多世代への周知も視野に入れ発信し、相談業務等において職員との信頼関係構築やサービスの説明の一助になった。 また、包括で開催したイベントなど包括の取り組みも動画で紹介し、わかりやすく情報発信をした。 ・包括だけの定期発行 包括の周知や情報提供を目的として定期的に発行。ICTの活用が難しい方が情報難民にならないよう配慮した。マンションアプローチ等の活動における『つながりづくりのツール』としても活用した。 ②マンション個別アプローチの継続及び拡充 2か月に1回の包括だけ発行時にマンション管理人等との顔の見える関係作りのため訪問。管理人と情報交換を行ったり、周知チラシの掲示や配布を行った。 ③『北区私の記録帳』を活用した権利擁護に関する周知啓発講座の開催 『北区私の記録帳』を活用した終活セミナーだけでなく、成年後見制度活用や『もしバナゲーム』を活用した人生会議に関する講座をシリーズで開催し、高齢者が元気なうちから我が事として認知症や介護が必要になることを考え、準備できるよう働きかけることができた。地域の会館等でも終活セミナーを開催した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	様々なツールを利用し包括を広く周知することができた。特にYouTubeでは包括の紹介動画が再生回数が1000回を超える動画もあり、広く包括の周知ができたと思われる。また、YouTubeではデイサービスの紹介動画をしたことで、ケアマネジャーからデイサービスの情報提供がしやすくなり、利用者支援に助かっているとの声もいただいた。 継続してマンションアプローチを続けた結果、入居者の異変に対し、情報収集ができ、いち早い対応ができた。また、そのことをきっかけにマンションの管理人からセミナーの開催等の依頼もあった。	
今後の課題	見守り体制ができつつあるマンション関係者には引き続き有益な情報提供等を含め関係性を高める共にプライバシーへの配慮により、関係構築が至らないマンションにおいても、個別対応等を通し丁寧な働きかけの積み重ねを行い、関係構築につなげる必要がある。 終活セミナーを行うことで参加した高齢者の意識が高くなってきており、成年後見制度の講座もすることができた。しかし、限られた地域でしか行っていないため、今後は他の地域でも終活セミナーを行っていく必要がある。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 7年 7月 22日（火）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント	圏域の地域性を考慮し、経年的にマンションアプローチに取り組んでいる。管理人との顔の見える関係ができ、入居者の相談を受けることやセミナー開催の依頼を受けることも増えてきた。また、力を入れているYouTubeチャンネルをサービス導入時の支援に役立っているケアマネジャーが増えていることから、浸透性や拡張性のある取り組みである。 終活セミナーに関しては、関係構築ができたマンションにだけでなく、地域の会館等でも開催することができたことは専門性のある活動としても評価できる。 今後、新たなマンションでも関係構築につながるよう、またより広い地域にて終活セミナー等の開催ができるよう、活動を続けて欲しい。	
* 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。		

# 課題対応取組報告書

名称	北区大淀地域包括支援センター
提出日	令和 7 年 6 月 4 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	認知症や介護が必要となっても安心して暮らすことができる地域ネットワークづくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	1. 認知症等の課題 ・認知症等が進行し、支援する家族がいないことで、金銭管理ができなくなる。財産管理や身上監護の問題から成年後見制度の利用が増えている。 ・本人や家族、親族が成年後見制度利用の必要性を理解していないケースもある。 ・精神疾患により、物盗られ妄想等があり、在宅生活が困難になる。 2. 介護者の負担増等の課題 ・介護家族がいない、介護家族の病気、負担増大などにより、介護ができなくなり、施設入所の検討が必要となる。 3. 介護予防の課題 ・趣味活動や地域活動などに参加すること、参加を継続すること。 ・会場までが遠くて参加継続できない場合も多い。	
対象	地域住民、地域関係者、専門職	
地域特性	圏域内の約 8 割がマンション、団地住民(市営住宅・U R 賃貸住宅)である。ひとり暮らし高齢者、夫婦のみの高齢世帯が増えている。町会、民生委員、地域福祉コーディネーターが連携を図りながら、高齢者の見守り活動、居場所作りに積極的に力を入れている地域が多い。また、企業、大学、専門学校などつながりも深く、地域との連携、協働した取り組みが活発である。	
活動目標	1. 認知症高齢者等を早期発見、早期支援できるネットワークを構築する ・地域住民や民生委員など地域からの相談を広く受けられること。 2. 介護家族等が研修会や交流会などに参加して負担が軽減する。 3. 地域住民やケアマネジャー等が社会資源情報を把握し、地域活動に参加することができる。	
活動内容 (具体的取組)	1. ①定期的に地域活動の場で、出張相談窓口を設置した。 ②ふれあい喫茶や食事サービス、百歳体操などに参加して、情報提供や相談窓口を周知した。 ③地域住民・介護支援専門員に向けて権利擁護などの講演会を開催した。 2. ①地域住民に向けて転倒予防やツボ講座などを開催した。本庄地域で認知症予防講演会、大淀東・大淀西地域でフレイル防止講演会・体力測定会を開催した。 3. インフォーマル資源集を作成して、介護支援専門員や関係者に情報提供した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1. ①②11/2 豊崎東シニア応援フェスタに出張相談窓口を設置した。企画段階から参加して、地域のニーズを聞くことで地域との交流を深めることができた。 ③11/22 豊崎地域で認知症普及啓発映画上映会を開催し、認知症への理解を深めることができた。(参加33名) 2/1 住民向けに権利擁護講演会を開催し、成年後見制度の理解を広めた。(参加16名) 1/16 センチュリーさくらにて住民向けに権利擁護・高齢者虐待防止講演会を開催した。(参加14名) 2. ①住民向けの講座を継続して開催することで、転倒予防や健康に関する意識の深まりがあった。また、参加者同士が交流を持つことができるコミュニティの場として発展している。 3. インフォーマル資源集を作成し、介護支援専門員に広く情報提供することができた。また、社会資源の情報を収集するにあたり、他機関や地域と協働・連携を強化することができた。	
今後の課題	・今後、認知症高齢者の権利擁護支援や介護予防の取組みや体制整備がますます課題となると考えられる。地域包括支援センターとして取り組みを継続しつつ、行政の仕組みづくり、住民主体の活動・通いの場に発展するような支援や働きかけが求められる。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 7 年 7 月 22 日 (火)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント	ネットワーク構築の取組みを経年的に実施しており、様々な団体や広く地域住民に対し、講演会やワークショップを実施している。なかなか人が集まらなかった講座にも、継続的に参加してくれる人が増え、居場所としての役割を担っている。この取り組みは浸透性や拡張性のある活動としても評価できる。 また、地域のイベントに企画段階から参加することにより、地域とのつながりを深めることが出来ている。 今後も、これまで築いてきたネットワークをより発展させ、地域に根差した活動となるよう期待する。	
* 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		